

有名論文から研究法と論文作成を学ぶウェブ教材の開発

Development of Web-based Materials for Learning Research Methods and Thesis Writing from Famous Articles

寺尾敦

Atsushi Terao

青山学院大学

Aoyama Gakuin University

<あらまし> 有名論文を教材として、心理学の基礎知識に加え、研究法、統計学、論文の書き方を学習するためのウェブ教材を開発した。心理学の研究法を学習する科目で、開発したウェブ教材を利用した。6名の受講者がウェブ教材を用いて論文を学習し、小テストと、教材評価のための質問票に回答した。小テストの成績はかなりよく、過去の学生と比べて最もよかった。調査票への回答から、学生は英語論文の読解に困難を感じており、ウェブ教材が読解の助けになったことが明らかになった。

<キーワード> 研究法、ウェブ教材、APA スタイル

1. はじめに

心理学あるいは関連領域の学生が学ぶべきことは多い。基礎知識に加え、研究法、統計学、論文の書き方を学ぶ必要がある。

これらを同時に学習する方法として、有名研究のオリジナル論文を読むことが考えられる。基礎知識、研究法、統計学、論文の書き方をそれぞれ単独で学習することに比べ、これらを有機的に関連づけて学習できるだろう。

研究論文を読むという学習を支援するために、筆者はウェブ教材の作成を始めた。論文を読むことでさまざまなことを有機的に学習できるが、学生が独力で学習を進めることは難しい。豊富な情報を含み、自分のペースで何度でも繰り返し学習のできるウェブ教材は、価値のある学習リソースとなるだろう。

2. 教材の構成

ウェブ教材は、青山学院大学情報メディアセンターの学外向けホームページサービスと (https://www.cc.aoyama.ac.jp/~t41338/lecture/review/review_top.html)、プロバイダー@nifty のホームページサービス (<http://terao.akiba.coocan.jp/lecture/review/LoftusPalmer74/LoftusPalmer74.html>) を利用して公開している。2つのページの内容は同一である。

教材に用いる最初の論文として、Loftus と Palmer による、交通事故の目撃証言についての論文(Loftus & Palmer 1974)を選んだ。今後、他の論文を追加していく予定である。

教材では、論文の内容そのものについての解説に加え、論文の書き方、研究法、統計的手法について解説を行った。PC のブラウザで表示した教材を図 1 に示す。論文の内容についての解説と容易に区別できるように、論文の書き方、研究法、統計的手法についての解説は枠で囲まれたボックスで提示した。図 1 では、アブストラクトの下に、論文の書き方(ここでは、アブストラクトの書き方)のボックスが表示されている。

論文の書き方は APA Publication Manual 7th Edition に従った。単に APA スタイルを示すだけではなく、心理学およびその関連領域の学部生に役立つ教材となるよう配慮した。

研究法として解説していることの多くは、多くのテキストで扱われていること(たとえば、媒介関係あるいは疑似関係の分析方法)である。しかし、教科書の研究方法が実際の研究でいかに具体化されるかを学ぶことには、意味があると考えている。



図 1 ウェブ教材

表 1 小テストの問題例

番号	問題文
1	実験 1 の目的を説明してください。
3	Table 1 に示されている結果に対して、著者は 2 つの解釈を示しています。これら 2 つの解釈はどのようなものですか？
5	Table 2 には何が示されているのかを説明してください。続いて、この表に示されている結果から何がわかるかを述べてください。
6	Table 3 に示されている結果は、どのような疑問を検討したものでしょうか？

表 2 英語論文読解の困難の度数分布

	とて も	やや	あま り	まっ たく
困難				
文の意味	0	5	1	0
主張と根拠	1	3	2	0
統計的手法	5	0	1	0
専門用語	3	2	1	0

表 3 ウェブ教材の有用性の度数分布

	とて も	やや	あま り	まっ たく
困難				
文の意味	5	1	0	0
主張と根拠	5	0	0	0
統計的手法	4	1	0	0
専門用語	4	1	0	0

3. 授業でのウェブ教材の利用

2 年生以上の学部生を対象とした、心理学の研究法を学習する科目で、開発したウェブ教材を利用した。この科目では、論文を教材として研究法を学習する。履修者は、指示された論文を 1 週間で予習する。授業では、最初の 15 分から 20 分で、予習での理解を確認する小テストが行われる。その後、その論文についての解説講義が行われ、授業の最後にもう一度小テストが行われる。

2024 年度前期の、この科目の登録者は 7 名であった。5 月 27 日の第 6 回授業で、次回授業（第 7 回）までに予習する論文とウェブ教材が提示された。第 7 回授業の出席者は 6 名であった。

3.1. テスト成績

授業の最初と最後の小テストは、いずれも 4 つの問題から構成され、それぞれ 50 点満点の、100 点満点で採点された。小テストに使用した問題例を表 1 に示す。問題番号 1 と 3 は授業の最初、5 と 6 は最後に行われた小テストで用いられた。

6 人の点数は、60, 70, 80, 80, 95, 100 (平均 80.8) であった。同じ小テストは、2017 年度から 2019 年度にこの科目で使われていた。それぞれの年度の平均点は、2017 年度 ($N = 24$) が 54.2 ($SD = 24.7$)、2018 年度 ($N = 44$) が 60.5 ($SD = 24.6$)、2019 年度 ($N = 33$) が 69.4 ($SD = 20.3$) であった。受講者数がかなり異なるため単純な比較はできないが、2024 年度の 6 名はこれまでで最も高い平均点であった。

3.2. 教材評価

論文の読解がどれほど困難か、ウェブ教材がどれほど助けになったかを、匿名の質問票で調査した。

日本語論文と英語論文の読解において、個々の文の意味、論文の主張と根拠、統計的手法、専門用語の理解がどれほど困難かを、「とても困難」「やや困難」「あまり困難でない」「まったく困難でない」の 4 段階で評定するよう求めた。英語論文での回答の分布を表 2 に示す。全体として困難を感じており、特に統計的手法の理解に困難を感じていることがわかった。

個々の文の意味、論文の主張と根拠、統計的手法、専門用語の理解において、ウェブ教材がどれほど助けになったかを、「とても助けになった」「やや助けになった」「あまり助けにならなかった」「まったく助けにならなかった」の 4 段階で評定するよう求めた。回答の分布を表 3 に示す。全体として教材が役立ったことがわかった。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP20K03368, JP23K02718 の助成を受けたものです。

参考文献

- Loftus, E. F. and Palmer, J. C. (1974) Reconstruction of Automobile Destruction: An Example of the Interaction between Language and Memory. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*, 13, 585-589.